

令和7年度 健康福祉学科  
自己点検・評価報告書

令和8年3月

本書における点検・評価のテーマ／基準／区分は、(一財) 大学・短期大学基準協会の定める項目のうち、学科/専攻科として対応すべきものを抽出したものである。

[テーマ 基準 I-B 教育の効果]

[区分 基準 I-B-1 教育目的・目標を確立している。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 学科又は専攻課程の教育目的・目標を建学の精神に基づき確立している。
<input type="checkbox"/> (2) 学科又は専攻課程の教育目的・目標を学内外に表明している。
<input type="checkbox"/> (3) 学科又は専攻課程の教育目的・目標の達成状況を把握・評価している。
<input type="checkbox"/> (4) 学科又は専攻課程の教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に応じているか定期的に点検している。

#### <現状>

学科の教育目標は『学生のしおり』に加え、本学 Web ページでも学内外に表明している。自己点検・評価委員会、総合学務センター委員会、学科会議での検討に加え、卒業前の2年生との教育課程懇談会、兼任教員や非常勤講師との教育課程懇談会を実施し、教育目標の達成具合の把握に努めている。

富山県社会福祉審議会をはじめ富山県福祉人材確保対策・介護現場革新会議や富山県介護福祉士養成校協会等での討議結果などを参考に、社会の要請に応えた人材養成となっているか点検している。

福祉・介護職場の情報化・デジタル化、介護ロボット・ICT、多職種連携など、介護現場の変化との整合性のとれた人材育成に向けて教育目標を点検した。

#### <課題>

今日の社会変化に対応した教育目標や教育内容になるよう、毎年見直しを行っていく。

#### <特記事項>

特になし

#### <改善計画>

教育課程懇談会や学修行動基本調査など、その年の教育成果を計るものをもとに、教育目的・目標のふり返りにいっそう取り組む。

[区分 基準 I-B-2 学習成果を定めている。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 短期大学としての学習成果を建学の精神に基づき定めている。
<input type="checkbox"/> (2) 学科又は専攻課程の学習成果を学科又は専攻課程の教育目的・目標に基づき定めている。
<input type="checkbox"/> (3) 学習成果を学内外に表明している。
<input type="checkbox"/> (4) 学習成果を学校教育法の短期大学の規定に照らして、定期的に点検している。

### <現状>

建学の精神に基づき、健康福祉学科の学修成果を定めている。学修成果を「学生のしおり」や Web シラバスに「学修成果別判断基準（ルーブリック）」として記載し、学内外に表明している。

学生の Web シラバスでの毎回の授業のふり返りのほか、期末の授業評価アンケートの結果をレーダーチャートで可視化し、点検するとともに、学期ごとの「授業改善レポート」の作成を通じて学習成果を点検している。

学習成果の表明の手立てとして、学生による毎年の資格取得の状況を公開している。

### <課題>

科目ごとのルーブリックが学生に十分伝わっているかの確認が必要である。

### <特記事項>

特になし

### <改善計画>

科目間のつながりや、ルーブリックへの理解を深めるオリエンテーションを工夫する。

[区分 基準 I-B-3 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）を一体的に策定し、公表している。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 短期大学及び学科又は専攻課程ごとに、組織的議論を重ね、三つの方針を関連付けて一体的に策定し、学内外に表明している。
<input type="checkbox"/> (2) 短期大学及び学科又は専攻課程ごとに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を明確に示している。
①卒業認定・学位授与の方針は、学習成果に対応し、卒業の要件、資格取得の要件を明確に示している。
②卒業認定・学位授与の方針は、社会的・国際的に通用性がある。
③卒業認定・学位授与の方針を定期的に点検している。
<input type="checkbox"/> (3) 短期大学及び学科又は専攻課程ごとに教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を明確に示している。
①教育課程編成・実施の方針は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。
②教育課程編成・実施の方針を定期的に点検している。
<input type="checkbox"/> (4) 短期大学及び学科又は専攻課程ごとに入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を明確に示している。
①入学者受入れの方針は、学習成果に対応している。
②入学者受入れの方針は、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。
③入学者受入れの方針を、高等学校等関係者の意見も聴取して定期的に点検している。

### <現状>

本学が定めた三つの方針及び、学則第 2 条の 2 (4) に定めた学科の教育研究上の目的

に基づいてディプロマ・ポリシーを、教育課程編成方針とともにカリキュラム・ポリシーを「学生生活のしおり」に記載している。また、アドミッション・ポリシーを学科の教育課程と一体的に策定している。いずれも本学の Web サイトでも公開している。

<課題>

ディプロマ・ポリシーの「育成する人材」について理解を深めてもらい、目指す進路を学生や父母等にイメージしてもらう。

<特記事項>

なし

<改善計画>

入学時のオリエンテーションや父母等懇談会での丁寧な説明を心がける。

[テーマ 基準 I-C 社会貢献]

[区分 基準 I-C-1 高等教育機関として地域・社会に貢献している。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 社会への貢献についての取組みに関する方向性を示している。
<input type="checkbox"/> (2) 地域・社会への貢献に取り組んでいる。
①地域・社会に向けた公開講座、生涯学習事業、正課授業の開放（リカレント教育を含む）等を実施している。
②地方自治体、企業（等）、教育機関及び文化団体等と協定を締結するなど連携している。
③教職員及び学生はボランティア活動等を行っている。
<input type="checkbox"/> (3) 地域・社会への貢献についての取組みを定期的に点検している。

<現状>

(1) 社会への貢献についての取組に関する方針

カリキュラム・ポリシーの教育課程方針（3）人間性豊かな人材を育成する教育に、「学生主体のボランティア活動を通して、豊かな人間性を育む」こととし、必修科目「ボランティア演習」「教養演習」「総合的研究」ではフィールドワークを取り入れるとともに、教員自身も学生の模範となるよう、社会貢献を行うこととしている。

(2) 地域・社会への貢献

①「地域からの介護人材参入促進事業」（富山县委託事業）

介護福祉士養成校の教育機能をいかして学生、卒業生が参加し、富山県社会福祉協議会・福祉人材センターをはじめ市町村社会福祉協議会、富山市、立山町、上市町、地域の関係団体、介護保険事業者等と連携し、「地域での出前講座」と「ウェルビーイング介護サポーター養成講座」を実施した。

「地域での出前講座」は地域住民を対象としたものは「貢献寿命」と「Well-being」を

キーワードに 48 回 2033 人、小学生を対象としたものは 5 回 130 人が参加、計 53 回 2,163 人の参加のもとで実施した。

「ウェルビーイング介護サポーター養成講座」は「基礎講座」「業務体験」「入門講座」のステップアップ型とし、基礎講座 6 コース 138 人、業務体験は 49 人、入門コース 4 コース 65 人が修了し、令和 8 年 3 月末現在 12 人が介護助手として働いている。

3 月には、県、市、地域住民、社会福祉協議会、学生、卒業生らが参加し「介護助手交流会」を開催した。この取組は、厚生労働省 HP で「介護人材採用に向けた事例集」に掲載、社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会、介護保険部会資料、富山県社会福祉協議会が発行する「福祉とやま」11 月号で紹介された。なお、本事業の取組を通し、富山県社会福祉協議会福祉人材センターが令和 8 年度厚生労働白書の取材を受けた。

## ②「中学・高校への福祉・介護の出前講座」（富山県社会福祉協議会から委託）

中学校への出前講座を 6 校・計 10 回開催、798 人が参加して介護ロボットを体験し、介護現場に対するイメージの刷新と興味の喚起をはかった。高校への出前講座は 6 校・計 8 回開催、140 人が参加し「DX×会議×well-being」や「タクティールケア」等をテーマに介護の仕事の理解をはかった。

## ③「介護の日」イベントへの参加

「介護の日」in とやま実行員会主催の「介護の日フェスティバル」で、1 年生のボランティアグループ「Tomitan スマイル 8 +」がリズム体操を披露し、啓発に努めた。

## ④リカレントセミナー

とやま介護テクノロジー普及・推進センターと連携し、「『AI×介護』で切り拓く富山の福祉・介護」をテーマにリカレントセミナーを開催した。

## ⑤富山県介護福祉士養成校協会の会長校および事務局校

平成 15 年に富山県介護福祉士養成校協会が創立以来、会長校及び事務局長校として県内の養成教育を牽引してきた。県から委託を受け「高校生のための福祉のガイド本」（第 10 版）を本学科が中心となり作成し、県内の高校生 1 年生を対象に配布した。

## ⑥ゼミ活動を通じた地域貢献

ゼミ活動を通し、介護保険事業所でのタクティールケアや推し活「Be supporters!」、レクリエーション等に取り組み、利用者及び介護職等の QOL の向上に貢献した。

## ⑦個々の教員の専門性を活かした審議会等委員活動

- ・富山県社会福祉審議会委員をはじめとした各種審議会や各種会議委員
- ・富山県社会福祉協議会富山県ボランティアセンター運営委員会委員長、富山県民 NPO 活動支援ファンド審査委員会委員長など
- ・介護支援専門員や介護福祉士実習指導者、民生委員・児童委員、社会福祉協議会等の研修講師
- ・日本レセプト学会理事、日本福祉大学同窓会理事、富山県レクリエーション協会理事、全国大学体育連合北陸支部・運営委員会委員など
- ・富山県看護協会副会長、富山県介護支援専門員会外部理事、富山市保護司会顧問など

## (3) 地域・社会への貢献についての取組みを定期的に点検

学科長、副学科長が学科全体のマネジメントをする中で業務量を把握するとともに、毎年

の地域連携センターの実績報告や自己点検を通して点検している。

#### <課題>

外部からの依頼に添えていくための効率的な学科運営  
本学科が担ってきた社会貢献の役割の継承

#### <特記事項>

募集停止に伴い、2年後に学科としての一定の役割を終えるが、それまで取り組む。

#### <改善計画>

残りの2年間、引き続き社会貢献していくとともに、これまで培ってきたノウハウは他の機関に引き継げるようにする。

### [テーマ 基準 I-D 内部質保証]

[区分 基準 I-D-1 自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 自己点検・評価のための規程及び組織を整備している。
<input type="checkbox"/> (2) 定期的に自己点検・評価を行っている。
<input type="checkbox"/> (3) 定期的に自己点検・評価報告書等を公表している。
<input type="checkbox"/> (4) 自己点検・評価活動に全教職員が関与している。
<input type="checkbox"/> (5) 自己点検・評価活動に高等学校等の関係者の意見聴取を取り入れている。
<input type="checkbox"/> (6) 自己点検・評価及び認証評価の結果を改革・改善に活用している。

#### <現状>

定められた時期に毎年、学科内で教員全員が分担して自己点検に取り組んでいる。評価項目は大学・短大基準協会の第三者評価の基準をもとに実施し、標準的な自己点検・評価となるよう努めている。

日常的な自己点検・評価活動の一環として毎週行う学科会議では、日頃の教育活動や学生指導等に出てきた課題や予想される事項についての意見交換、すでに生じた事案への対応などを学科の総意と共通理解で行う体制を整えている。また、結果についても共有している。

大学で設置する「外部評価委員会」での指摘事項も自己評価の材料としている。

教員との教育課程懇談会ならびに2年生との教育課程懇談会で寄せられた意見等も、積極的に反映させている。

2年生による学修行動調査の結果も学科教員で共有し、意思統一のもとで改善に取り組んでいる。

#### <課題>

自己点検作成後に、学科全体での問題点の把握と確認が求められる。

#### <特記事項>

シラバス作成後に学科内での点検作業も導入し、教員相互で改善に取り組む体制と意識

化を図っている。

#### <改善計画>

自己点検作業を通じて顕在化した課題を科会で提起し、次年度の改善に反映させるとともに、その年の自己点検でふり返りを行う。

#### [区分 基準 I-D-2 教育の質を保証している。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 学習成果を焦点とする査定（アセスメント）の手法を有している。
<input type="checkbox"/> (2) 査定の手法を定期的に点検している。
<input type="checkbox"/> (3) 教育の向上・充実のための PDCA サイクルを活用している。
<input type="checkbox"/> (4) 学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを確認し、法令を遵守している。

#### <現状>

学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令などを遵守しながら教育に取り組んでいる。Web シラバスを利用して学生は毎回の授業をふりかえるほか、教員は期末の授業アンケートでの学修成果をレーダーチャートで可視化するとともに、学期ごとに「授業改善レポート」を作成して、学習成果の査定手法の点検と教育の質の向上に努めている。

教育向上・充実の PDCA サイクルでは、前期・後期の始まりの教務委員によるシラバス点検や学科教員全員が学内の FD 研修会に参加するなどして改善につなげている。

生活支援技術については生活支援技術到達評価表を作成し、2 年次の 2 月に到達度を評価している。また、医療的ケアについては学生がチェックリストに基づき 5 回以上授業時間で行うとともに、実技試験でミスがない状態を学習成果の査定の方法としている。

国家資格である介護福祉士をはじめ、医療的ケア基本研修修了、普通救命Ⅱ講習修了、介護職員初任者研修修了、社会福祉主事任用資格、メディカルクラーク、ケアクラーク、福祉住環境コーディネーター、日商 PC 検定、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会認定「介護サービス担当者のためのストーマケア講習会」修了、アクティビティ・ワーカー資格受験、ウォーキングトレーナー、公認初級パラスポーツ指導員、介護予防運動トレーナー資格の取得状況も、学習成果を測る一つの目安としている。

#### <課題>

科目ごとのルーブリックが学生に十分伝わっているかの確認が必要である。

#### <特記事項>

実習の学修成果を高めるため、「介護実習の評価に関する検討会」を 3 回開催した。

#### <改善計画>

科目と科目のつながりや、ルーブリックについての理解を深めるオリエンテーションを充実させる。

[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]

[区分 基準Ⅱ-A-1 卒業認定・学位授与の方針に従って、単位授与、卒業認定や学位授与を適切に行っている。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 単位授与の要件を定めている。
<input type="checkbox"/> (2) 単位授与、卒業認定や学位授与に関する要件を周知している。 ①単位の実質化を図り、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、年間又は学期において履修できる単位数の上限設定等を行っている。
<input type="checkbox"/> (3) 単位授与、卒業認定や学位授与が適切に運用されていることを点検している。
<input type="checkbox"/> (4) 進級判定がある場合は周知している。

<現状>

卒業認定ならびに学位授与の方針は、学則第 2 条の 2 にある学科の目的達成のために編成した教育課程を履修し、規定の単位を修得することとなっている。

学科の卒業認定・学位授与方針は学科の学修成果に対応しており、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件も「学生のしおり」で明確に示している。

学科の卒業認定・学位授与の方針は、短期大学設置基準と照らし合わせて点検しており、社会的・国際的に通用性があると考えられる。

卒業生の単位取得状況や科目の履修状況などを参考にしながら、能力基準別到達目標（学修成果）の点検を年度末に行っている。

合理的な配慮が求められる学生に対しては、卒業に至るまで適切な支援に努めている。

<課題>

ChatGPT,Gemini 等（OpenAI）の利用が簡単にできる時代となり、期末レポートの課題がどのようになされたかの確認が取りにくくなってきている。

<特記事項>

特になし

<改善計画>

担任やゼミ担当が、支援の必要な学生の取得単位や GPA を期末ごとに確認しながら指導するとともに、学科で状況を共有しながら支援方法や内容について意思統一を図っていく。

レポート作成での安易なインターネット利用への注意を促しながら、レポートの採点基準を平準化するための検討を始める。

[区分 基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針に従って、教育課程を編成している。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり体系的に編成している。 ①学習成果に対応した、授業科目を編成している。
②専門職学科においては、当該学科の専攻に係る職業の状況等を踏まえて授業科目の

開発及び編成を行っている。
③シラバスに必要な項目（学習成果、授業内容、予習・復習の内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等）を明示している。
④学生による授業評価を定期的を受けて、授業改善に活用している。
⑤授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を図っている。
⑥通信による教育を行う学科又は専攻課程の場合には印刷教材等による授業（添削等による指導を含む）、放送授業（添削等による指導を含む）、面接授業又はメディアを利用して行う授業の実施を適切に行っている。
<input type="checkbox"/> (2) 教育課程の見直しを定期的に行っている。
<input type="checkbox"/> (3) 専門職学科の授業科目の開発、教育課程の編成及びそれらの見直しにおいて、教育課程連携協議会の体制・役割が明確である。

### <現状>

教育課程は、短期大学設置基準や学修成果に対応しているか、シラバスの見直しを行っている。

介護福祉士養成課程については、国の定める教育課程の範囲で、変化していく福祉現場の状況に合わせてながら授業科目の開発と編成を行っている。

教育課程については、シラバスに必要な項目を Web 上で確認できるようにしている。

学科の教育課程は「学生のしおり」に記載し、資格取得との関連も含めて学生にわかりやすく明示している。

教育課程編成方針、教育課程実施方針（教育内容・方法）と学修成果の評価方法、学修成果の評価は、毎年度末に見直しを行っている。

介護福祉士養成課程においては必修科目に含めるべき教育内容が国により定められており、該当科目はシラバスでその点が確認できるようにしてある。

教育課程懇談会は、卒業を間近に控えた 2 年生全員から学科の教育活動への感想や意見を述べてもらい、その内容を学科全体で共有している。

### <課題>

教育課程懇談会で 2 年生から具体的な思いを聞き取り、教育の質の向上に反映させる。

### <特記事項>

2 年生との教育課程懇談会では、学科の教育や進路指導(支援)、各種資格取得・国試対策、学内の設備や学習環境などへ、広く意見や感想を出してもらい、今後の参考とした。

### <改善計画>

教員との教育課程懇談会に学外の非常勤講師の参加がなかったので、開催時期を見直す。

[区分 基準Ⅱ-A-3 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう編成している。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 教養教育の内容と実施体制が確立している。

- |   |
|---|
| <input type="checkbox"/> (2) 教養教育と専門教育との関連が明確である。       |
| <input type="checkbox"/> (3) 教養教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。 |

#### <現状>

Web シラバスにおいて、教養教育を含めた教育課程体系図（カリキュラムツリー）を示している。

学科の教養科目には、区分「健康」「人間と社会」「外国語」を設けている。

区分「人間と社会」では、本学科の特徴として「ボランティア演習」、社会生活でも活用される「コミュニケーション論」はじめ、福祉の基盤でもある「人間の尊厳と自立」など、幅広く深い教養と豊かな人間性を修得できるよう科目を配置している。

また、「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」「人間と情報」により、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムへの対応を行っている。

「教養演習」では、自発的・主体的に学習し、「読む」「読み取る」「考える」「書く」「意見を出す」「調べる」という能力を高めることを目的としている。

区分「外国語」では、異文化及び言語に触れ、国際交流に役立つコミュニケーション能力を養うため、「英語」を必修としている。

#### <課題>

特になし

#### <特記事項>

教養演習や総合的研究では、本学がある呉羽地域でのフィールドワークを行い、地域への貢献につなげることを試みている。

#### <改善計画>

特になし

[区分 基準Ⅱ-A-4 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、職業又は実際生活に必要な能力を育成するよう編成し、職業教育を実施している。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 学科又は専攻課程の専門教育と教養教育を主体とする職業への接続を図る職業教育の実施体制が明確である。
<input type="checkbox"/> (2) 職業教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

#### <現状>

学科にキャリア支援担当教員を置くほか、授業「キャリアデザイン演習」担当教員を学科教員から充て、1年前期からのキャリア指導に取り組んでいる。1年後期からは、担任だけでなくゼミ担任による個別指導を行い、本人の志望先の把握と受験指導などの分担を明確化している。また、毎年4月には年間の就職指導計画表を学生に配布している。

職業教育の効果測定は、2年生との教育課程懇談会をはじめ、卒業時のアンケート調査を通じて把握できるようにし、改善につなげている。

また、常時キャリア支援センターとの情報共有に努め、2年前期の半ばからは学生個々の就活状況一覧を毎週提出している。

<課題>

学生が主体的に就職活動を行えるよう、進路への意識を高める働きかけが求められる。

学生は実習先から就職先を選択する傾向があるため、さまざまな事業所へ視野を広げた就職活動を促す。

<特記事項>

科会で2年生の就職活動状況を情報共有し、就職支援担当者とゼミ担任の連携で適切な支援につなげた。

<改善計画>

計画的に就活に取り組めるようゼミ担も積極的に学生へ関わり、科会で一人ひとりの進捗状況を報告するようにする。

[テーマ 基準Ⅱ-B 学習成果]

[区分 基準Ⅱ-B-1 短期大学及び学科又は専攻課程において、学習成果は明確である。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 学習成果に具体性がある。
<input type="checkbox"/> (2) 学習成果は一定期間内で獲得可能である。
<input type="checkbox"/> (3) 学習成果は測定可能である。

<現状>

2年次の11月に、日本介護福祉士養成施設協会による「学力評価試験」を、12月に外部模試の「介護福祉士全国統一模擬試験」を、介護福祉士を目指す2年生全員が受け、その時点での学習成果の明確化を行っている。

Web シラバスの各科目の学修成果別評価基準(ルーブリック)との照合や、履修学生による授業評価アンケートの結果をもとに、学習成果の明確化に努めている。

卒業認定に合わせ各資格・検定の取得人数(修了者数)の集計を出し、その学年における学習成果として明示している。

2年次の2月に、科目「生活支援技術」の到達度を確認することを目的に「生活支援技術到達度評価」を履修者全員に行っている。

<課題>

Web シラバスの各科目の学修成果別評価基準(ルーブリック)の妥当性の検証が望まれる。

<特記事項>

基礎実習にシャドーイングを導入して以来、介護福祉士の資格取得を目指す学生における取得率100%を維持している。

<改善計画>

学生の授業評価アンケートの結果や教員の授業改善レポートをもとに、学習成果をより

妥当なものへ改善を促していく。

[区分 基準Ⅱ-B-2 学習成果の獲得状況を適切に評価している。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 各授業科目の学習成果は、学科又は専攻課程の学習成果に対応している。
<input type="checkbox"/> (2) 教員は、成績評価基準等により学習成果の獲得状況を適切に評価している。
<input type="checkbox"/> (3) 教員の成績評価の状況について把握し、点検している。

<現状>

免許・資格等の取得状況にて、学習成果の対応状況を把握し、評価している。

- ①介護福祉士国家試験 受験資格 26人
- ②医療的ケア基本研修修了 26人
- ③普通救命Ⅱ講習修了 26人
- ④社会福祉主事任用資格修了 26人
- ⑤介護職員初任者研修修了 22人
- ⑥ケアクラーク（介護）技能認定試験 9人
- ⑦介護予防運動トレーナー 2人
- ⑧ウォーキングトレーナー 2人
- ⑨介護サービス担当者のためのストーマケア講習会修了 26人
- ⑩四年制大学の3年次編入学合格 3人

また、1年次、2年次ごとにGPAによる学習成果の獲得状況を評価している。

施設実習での評価は、巡回を担当する教員が集まって、実習施設ごとでの成績評価の差異を調整する検討を、実習ごとに行っている。

<課題>

各自の学習成果を証明するものとして、資格や免許の取得意欲を向上させる。

<特記事項>

学修行動・生活調査における学習成果に関する自己評価では、入学時との比較で「能力や知識はどう変化したか」の問いに、17項目中16項目で「大いに増した」「増した」合わせて8割超との結果であった。同項目数は、昨年度の9項目より7項目増加した。（「幅広い教養・一般常識」「専門分野の基礎的な知識」「専門分野での実践に必要な技術・技能」「プレゼンテーション力」ほか）8割に達しなかったのは、「自分で目標を設定し、計画的に行動する力」であった。

<改善計画>

実習施設からの評価に大きなばらつきが出ないように、施設でつけてもらう実習評価票の改善と評価基準の見直しを継続してやっていく。

[区分 基準Ⅱ-B-3 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをも

っている。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) GPA 分布、単位修得率、学位取得率、資格試験や国家試験の合格率、学生の業績の集積（ポートフォリオ）、ルーブリック分布などを活用している。
<input type="checkbox"/> (2) 学生調査や学生による自己評価などを活用している。
<input type="checkbox"/> (3) インターンシップや留学などへの参加率、大学編入学率、在籍率、卒業率、就職率などを活用している。
<input type="checkbox"/> (4) 卒業生への調査、卒業生の進路先を対象とする調査などを活用している。
<input type="checkbox"/> (5) 測定した結果を学習成果の点検に活用している。

### <現状>

#### ①質的データ

介護実習では実習報告レポートをもとに実習報告会を開催し、教員による成果の把握と学生間で学びの共有を図っている。また、実習記録の指導者からのコメントも学習成果の測定に活用している。

介護実習は各自で「経験録」を実習ごとに記入し、何を見学したか、説明を受けたか、体験したかの区分で記録を残せるようにしてある。これにより、実習ごとでの詳細な経験内容をふり返られるようになっている。

#### ②量的データ

卒業前に学修行動・生活調査を行っているほか、1・2年生の前後期において授業評価アンケートを実施し、学修成果の獲得状況等への学生の感想を把握している。

介護福祉士資格を目指す学生は全員、生活支援技術の到達度の判定を卒業前に受けている。

毎年11月下旬には日本介護福祉士養成施設協会による全国統一での学力評価テストを受け、その時点での学力面の到達度把握をしている。また、業者による介護福祉士国家試験に向けた模擬テストを、2年次に実施している。

介護福祉士国家試験については全国の養成校の合格率と、メディカルクラーク、ケアクラークその他の資格試験について、全国の合格率、本学科の直近の合格率等と比較している。

### <課題>

学修成果を確認するツールとなる授業評価アンケートの回答率100%を目指す。

### <特記事項>

実習指導者と共に「介護実習の評価に関する検討会」をオンラインで3回開催し、今年度の介護実習評価についてデータを基に振り返り、評価方法について議論と意見交換を行った。次年度の介護実習評価について実習施設に向けての留意事項をまとめた。

### <改善計画>

授業評価アンケート実施時期やタイミング、回答率を高める工夫など学科内で十分に検討して学生に働きかける。

[区分 基準Ⅱ-B-4 学習成果の獲得状況の公表に努めている。]

<b>点検・評価の観点</b>
<input type="checkbox"/> (1) 学習成果の獲得状況について、可視化した根拠がある。
<input type="checkbox"/> (2) 学生に獲得した学習成果を自覚できるように、根拠を基に説明している。
<input type="checkbox"/> (3) 学習成果の獲得状況について、根拠を基に公表することに努めている。

#### <現状>

5月下旬から7月中旬にかけて、前年度卒業生の県内の就職先を訪問し、本人や上司との面談結果を学科で共有するとともに、在学生の指導に反映させている。

上記訪問時の採用先へのアンケートでは、4項目のうち「礼儀・基本的マナー」への評価が高い（最上位のAが74%）ことがわかった。

前年度の卒業生を対象にオンライン同窓会を平日の19時から20時、およそ1年間にわたり毎月1回開催し、定着支援と状況把握に努めた。

実習巡回時や卒業生が本学へ来校した際に、就労状況の様子を伺うことに努めた。

#### <課題>

卒業生が、卒業後の新しい環境に適応できるまでの定着支援が必要である。

#### <特記事項>

卒業生が仕事の現状報告や悩み事についての報告に来校し、教員が丁寧に対応している。

#### <改善計画>

オンライン同窓会や実習巡回などで卒業生の状況把握をしつつ、必要があれば相談に応じるなどフォローアップにも配慮していく。

### [テーマ 基準Ⅱ-D 学生支援]

#### [区分 基準Ⅱ-D-1 学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている。]

<b>点検・評価の観点</b>
<input type="checkbox"/> (1) 入学手続者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供している。
<input type="checkbox"/> (2) 入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーション等を行っている。
<input type="checkbox"/> (3) 学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択のためのガイダンス等を行っている。
<input type="checkbox"/> (4) 学生便覧等、学習支援のための印刷物（ウェブサイトを含む）を発行している。
<input type="checkbox"/> (5) 学生に対して履修及び卒業に至る指導・支援を行っている。
<input type="checkbox"/> (6) 学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制を整備している。
<input type="checkbox"/> (7) 基礎学力が不足する学生や進度の遅い学生に対し補習授業等を行っている。
<input type="checkbox"/> (8) 進度の速い学生や優秀な学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っている。
<input type="checkbox"/> (9) 通信による教育を行う学科又は専攻課程の場合には、添削等による指導の学習支援の体制を整備している。
<input type="checkbox"/> (10) 図書館等に専門的職員その他の専属の教員又は事務職員等を配置し、学生の学習向上のために支援を行っている。

- |   |
|---|
| <input type="checkbox"/> (11) 学生の海外への派遣（長期・短期）を行っている。               |
| <input type="checkbox"/> (12) 学習成果の獲得状況を示す量的・質的データに基づき学習支援方を点検している。 |

### <現状>

12月までの入試における合格者を対象に入学前セミナーを実施し、事前課題を設けて提出してもらった。当日は、課題の振り返りとレポートの書き方についてのミニ講義、学生による学生生活の準備に関する懇談を、在学学生を交えて行った。

1年前期は教養演習ゼミ、1年後期から総合的研究のゼミによる担任制度で支援した。

介護福祉士国家試験の受験対策として、科目ごとに担当教員が補習をするほか、科目別授業も実施して取り組んだ。外部模試は昨年度の2回から今年度は3回に増やし実施した。

家庭との連携を取るために、大学祭に合わせて父母等懇談会を開催した。

学習上の課題を持つ学生には、クラス担任、ゼミ担任、分野別教員により多面的な支援を行うほか、学科の会議で情報共有するなどの体制をとっている。また、必要に応じて家族とも連携しながら進めている。

経済的な課題を抱える学生には、富山県社会福祉協議会による介護福祉士等修学資金（介護福祉士国家試験受験資格取得希望者が対象）をはじめとする奨学金等を紹介している。受験生にも入学前セミナーでも案内している。父母等へもオープンキャンパスでの父母等説明会や入学後のオリエンテーションで案内し、利用を促している。

2年後期の12月から1月を国試対策期間として、介護福祉士国家試験の受験に備えた授業及び補習・自習時間を設定し、対面形式とオンラインを併用し実施している。

### <課題>

父母等懇談会への参加者が少ない。連携が必要な学生の家族への働きかけが難しい。

介護福祉士を目指す学生は、介護福祉士養成のための指定科目の学習に加え、10週間の介護実習のため、国家試験受験対策のための学習時間の確保が難しい。

### <特記事項>

介護福祉士国家試験の受験対策の1つである自習時間において、教員が質問への対応、個別指導を実施した。

### <改善計画>

国家試験の受験対策のための時間を確保できるよう、2年後期の時間割調整に取り組む。

[区分 基準Ⅱ-D-2 学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 学生の生活支援のための教職員の組織（学生指導、厚生補導等）を整備している。
<input type="checkbox"/> (2) クラブ活動、学園行事、学友会など、学生が主体的に参画する活動が行われるよう支援体制を整えている。
<input type="checkbox"/> (3) 学生食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティに配慮している。
<input type="checkbox"/> (4) 宿舎が必要な学生に支援（学生寮、宿舎のあっせん等）を行っている。

<input type="checkbox"/> (5) 通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）を図っている。
<input type="checkbox"/> (6) 奨学金等、学生への経済的支援のための制度を設けている。
<input type="checkbox"/> (7) 学生の健康管理、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制を整えている。
<input type="checkbox"/> (8) 学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めている。
<input type="checkbox"/> (9) 留学生が在籍する場合、留学生の学習（日本語教育等）及び生活を支援する体制を整えている。
<input type="checkbox"/> (10) 社会人学生が在籍する場合、社会人学生の学習を支援する体制を整えている。
<input type="checkbox"/> (11) 障がい者の受入れのための施設を整備するなど、障がい者への支援体制を整えている。
<input type="checkbox"/> (12) 長期履修生を受け入れる体制を整えている。
<input type="checkbox"/> (13) 学生の社会的活動（地域活動、地域貢献、ボランティア活動等）に対して積極的に評価している。

### <現状>

学生の生活支援のための教職員の組織の整備については、学科としての意思統一ならびに担任とゼミ担当教員が連携できるよう、毎週、学科会議を開催している。

クラブ活動、学園行事、学生会など、学生が主体的に参画する活動が行われるよう、学科の年間行事予定を学年始めに配布するとともに各担当教員を定め、支援体制を整えている。

奨学金等、学生への経済的支援に関しては、学期初めに富山県社協による「介護福祉士等修学資金」への申請を呼びかけているほか、自治体や法人等による各種修学資金の案内を作成して、学年始めのオリエンテーションで配布している。

学生の健康管理、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制では、学生個々に合った対応を心がけ、学生の同意があれば学科教員間で情報を共有しながら支援をしている。また、本人が望めば学内のスクールカウンセリングにつなぐことも行っている。

学生からの意見や要望は、卒業前に2年生を対象として行う「学生との教育課程懇談会」で項目を設け、自由闊達に思いを述べてもらって聴取している。

社会人学生に対しては、委託訓練生として複数名の入学が毎年あることから、キャリアコンサルタントによる年数回の個別面談と必要に応じて担任による面談を行うなどして、本人が抱える学習面ほかの課題解決に努めている。

学生の社会的活動は、卒業時に行う「介養協会長賞」受賞者選考の参考にしている。

### <課題>

奨学金制度は、毎回のオープンキャンパスや入学前に開催している「入学前セミナー」でも案内しているが、浸透しきれていない。

### <特記事項>

特になし

### <改善計画>

奨学金は学納金の大半を工面でき、条件によっては返還免除になるものもあるで、父母等対象の説明会でもっと長所を伝えていきたい。

[区分 基準Ⅱ-D-3 進路支援を組織的に行っている。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 就職支援のための教職員の組織を整備し、活動している。
<input type="checkbox"/> (2) 就職支援のための施設を整備し、学生の就職支援を行っている。
<input type="checkbox"/> (3) 就職のための資格取得、就職試験対策等の支援を行っている。
<input type="checkbox"/> (4) 学科又は専攻課程ごとに卒業時の就職状況を分析・検討し、その結果を学生の就職支援に活用している。
<input type="checkbox"/> (5) 進学、留学に対する支援を行っている。

<現状>

就職支援のための教職員の組織としては、主務者としてキャリア支援委員を1名定め、学内のキャリア支援センターとの連絡調整や学生指導に努めている。また、富山県福祉人材センターとの連絡窓口としても機能している。

法人や企業等からの案内は学科内の掲示板に貼りだしているが、求人票は専用アプリで各自スマホからいつでもどこでも確認できるようになっている。

就職のための資格取得、就職試験対策等では、学費の負担増なしで多様な資格取得が可能となるカリキュラムを整備し、多彩な進路選択につながるよう支援している。就職試験対策では、履歴書添削は、本人の主体性を引き出しながら、ゼミ担ほかの教員で個別指導を行っている。面接練習は、福祉施設での採用試験が始まる前の7月にハローワークから講師を迎えて行うほか、教員による個別指導も随時実施している。

進学については1年次から編入学指導の担当教員のほうで相談を受けながら、興味関心のある学校へのオープンキャンパスへの参加や受験指導に努めている。

<課題>

就職先選びや編入学の受験準備が遅い学生がいる。

<特記事項>

特になし

<改善計画>

キャリア支援委員、クラス担任、ゼミ担任と3人の教員が担っているが、学生は自分が気に入っているほかの教員に相談に行く場合もあって、情報共有に支障が生じている。

[テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源]

[区分 基準Ⅲ-A-2 教員は、教育課程編成・実施の方針に基づき教育研究活動を行っている。]

点検・評価の観点
<input type="checkbox"/> (1) 専任教員又は基幹教員の研究活動（論文発表、学会活動、国際会議出席等）は教育課程編成・実施の方針に基づき成果をあげている。

<input type="checkbox"/> (2) 専任教員又は基幹教員は、科学研究費補助金等の外部資金を獲得している。
<input type="checkbox"/> (3) 専任教員又は基幹教員の研究活動に関する規程等を整備し、研究環境の整備に努めている。
<input type="checkbox"/> (4) 専任教員又は基幹教員の研究倫理を遵守するための取組みを定期的に行っている。
<input type="checkbox"/> (5) 専任教員又は基幹教員の研究成果を発表する機会（研究紀要の発行等）を確保している。
<input type="checkbox"/> (6) 専任教員又は基幹教員の研究、研修等を行う時間を確保している。
<input type="checkbox"/> (7) 専任教員又は基幹教員の留学、海外派遣、国際会議出席等に関する規程を整備している。

### <現状>

専任教員は、各規程を遵守しながら、教育課程編成・実施の方針に基づき、教育活動をおこなうとともに、関連する諸学会に所属して投稿や発表など研究活動を実施している。また、科研費や財団等の助成金を申請し、国内および海外で研究活動を行い、その成果を授業、ホームページで発信するなど、積極的に教育への反映を行っている。

なお、令和7年度授業アンケートの総合評価値の平均値は4点満点中3.53であり、学生の満足度は良好である。

1年前期の「教養演習」および1年後期からの「総合的研究」ではフィールドワークの手法を導入し、調査研究の対象を大学が立地する呉羽地域に設定して取り組んでいる。総合的研究の発表会では広く呉羽地域の各種団体や福祉施設等からの参加があり、たくさんの質問や助言をいただくことができ、教員の教育研究の糧ともなっている。

### <課題>

学科業務の増加や多様な学生への対応などにより、研究時間の確保が難しくなってきている。

### <特記事項>

富山県老人福祉施設協議会の研究レポートの選考委員会で、座長を13年にわたり、学科教員が務めている。

### <改善計画>

時間割、業務分担等を見直すことで研究活動の時間を確保し、また、専任教員が研究について意見交換する機会を設け、合同研究にも取り組んでいく。

# 令和6年度本学卒業生の事業所・企業等就職先訪問 報告書

## — 卒業生の状況報告書集計 —

令和7年度実施

健康福祉学科						
調査卒業生数	15名	(全23名のうち県外就職1名、進学4名、未定1名を除く)				
※事業所との日程調整困難のため、2名について調査不可						
評価項目	A (良い)	B (やや良い)	C (普通)	D (やや悪い)	E (悪い)	無回答
1. 礼儀・基本的マナー	11名 (74%)	2名 (13%)	0名 (0%)	2名 (13%)	0名 (0%)	0名 (0%)
2. チームワーク [チームで働く力]	8名 (53%)	3名 (20%)	3名 (20%)	1名 (7%)	0名 (0%)	0名 (0%)
3. アクション [前に踏み出す力]	9名 (60%)	1名 (7%)	4名 (26%)	1名 (7%)	0名 (0%)	0名 (0%)
4. シンキング [考え抜く力]	7名 (47%)	2名 (13%)	3名 (20%)	2名 (13%)	1名 (7%)	0名 (0%)

5. その他、応対者のコメント	※添付資料参照					

★大学に要望すること(大学で指導してほしいこと、学生に身に付けてほしいこと 等)						
・市内在住の方でなくても、当事業所の特徴を理解して就職して下さる方を紹介下さい。						
・このような人をもっと育ててほしい。						
・卒業生が介護職に転職する際に、インターネット検索したスポンサー経由だとほぼ人材紹介サイトであり、事業所へ連絡が来て紹介料として高額請求(30万円)される場合もある。1日に4~5件は連絡が来るが、本人の情報を何も見ないで求人断っている状況である。現役生・卒業生とも直接施設に問い合わせてもらえれば、いつでも応じると指導してほしい。						
・介護の基本をきちんとおさえてほしい。						
・社会人として(給与を得て)働くということ。						
・臨機応変に対応できる力や、思考を身につけてほしい。会社でも教育するが、新卒者(養成校出身)は対応できるまでに時間がかかるように感じています。						
・介護の新技术、新しい知識、考え方等を持ち込んでくれることに期待している。						
・介護の専門家を育て、現場実習をされている。これ以上望むことはない。						
・引き続き実習に来ていただきたい。						

★次年度の求人について						
有 : 鶴寿苑、堀川南光風苑、コスモスの里、風の庭、まみーずがーでん黒瀬、Re-TAC、あさひ総合病院、はなさき苑、みどり苑、しみずまち敬寿苑						
無 :						
未定 :						

★卒業生からの声						
※添付資料参照						